
ドラえもんー13人制、暗黒武術会

竜斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラえもんー13人制、暗黒武術会

【Nコード】

N7441V

【作者名】

竜斗

【あらすじ】

（自由自在さんの許可を得て、）

ドラえもんメンバーが、暗黒武術会に挑む！

登場人物紹介（前書き）

ドラえもん、登場人物紹介。

登場人物紹介

野比のび太

なにやっても駄目なのび太。

ドラえもん

未来のネコ型ロボット。

源静香

町の中で一番強い少女。

骨川スネ夫

お金持ち。でも性格はまとも。

ジャイアン

ガキ大将。

出来杉

学校内で一番の天才。

安雄

名脇役。作者に頼んで登場させてもらった。
のび太のクラスメート。

はる夫

脇役。作者に頼んで登場させてもらった。
のび太のクラスメート。

ドラミ

ドラえもんの妹。とてつもない力を持つ。

セワシ

ノビスケの曾孫でのび太の玄孫。

小池

いつも食事がラーメンという人。

ミイちゃん

ドラえもんのガールフレンドのネコ。

ジャイ子

ジャイアンの妹。

登場人物紹介（後書き）

次回、本編へ突入！

暗黒武術会、招待状。（前書き）

ある日、ドラえもんメンバーにこんな招待状が届く。

暗黒武術会、招待状。

のび太「ドラえもんーーーーん!!!!!!!!!!」

小学五年生、野比のび太が2階に駆け上がり、ドラえものの近くに寄った。

ドラえもん「どうしたの？」

未来のネコ型ロボット、ドラえもんが漫画を読んでいる。

のび太「この招待状、見てよ！」

ドラえもん「？」

ドラえもんはのび太が手に持つてる手紙を読む。

「この招待状が君に届けられたということは、

暗黒武術会に出場しなければならない。

手続きは夜の間だけ。今日に。

フフフ、楽しみにしているぞ。」

のび太「どうしよう!」

ドラえもん「あれ?これ僕も同じ手紙来たよ?」

のび太「え?」

のび太はパニック状態から直る。

ドラえもん「とにかく、静香ちゃんもスネ夫もこの招待状が届いてるかもしれない。

行ってみよう。」

のび太「・・・うん!」

2人は静香宅へ向かった。

静香宅

玄関の前に立っている静香。

静香「俺も同じ手紙来たんだ。参加だなコリヤ。」

のび太「静香ちゃんもか！」

ドラえもん「あ、スネ夫も来た！」

スネ夫「のび太ーーーー！！！」

静香宅に、スネ夫が走ってきた。

スネ夫「のび太、お前、招待状持ってる？」

のび太「？持ってるけど？」

スネ夫「そうか！実は俺も届いたんだ！」

ドラえもん「4人届いたみたいだね。」

ドラえもん「・・・メンバー足りないな・・・。

そうだ！僕の秘密道具で招待状届いてる人を
探すよ！」

のび太「出来るの！？」

ドラえもん「うん！ちょっと待ってね。」

20分後

招待状が届いたメンバーは、のび太、ドラえもん、静香、スネ夫、ジャイアン、出来杉、安雄、はる夫、ドラミ、セワシ、小池、ジャイ子であつた。

ドラえもん「手紙によると、13人制だからね。」

のび太「よし！暗黒武術会に行くぞー！」

全員「おーーーー！！！！！！」

こうしてこの13人は、暗黒武術会に出ることになった……。

13人、彼らの戦闘能力を調べてみよう。

のび太 得意技「ガンマン銃術」

ドラえもん 得意技「解体手術」

静香 得意技「拳武術」

スネ夫 得意技「ファイナル魔術」

ジャイアン 得意技「強力武術」

出来杉 得意技「精神崩壊魔術」

安雄 得意技「影踏み武術」

はる夫 得意技「果物武術」

ドラミ 得意技「怪力武術」

セワシ 得意技「時間魔術」

小池 得意技「ラーメン武術」

ジャイ子 得意技「召喚魔術」

暗黒武術会、招待状。（後書き）

次回、暗黒武術会！

首くくり島（前書き）

首くくり島についた13人。

首くくり島

13人は首くくり島に着いた。

のび太「よし！じゃあ、受付に行こうか。」

のび太は受付のほうに向かった。

のび太「それにしてもいっぱい人いるな・・・
マリオシリーズ、ポケモンシリーズ、
何か黒いコート着た人たち、
ドラゴンボールシリーズ、
幽遊白書シリーズなど・・・。」

のび太は受付に着いた。

受付人「ドラえもんシリーズのゲストの方ですね。どうぞ、NO、プレートです。」

受付の人はのび太達を見つけるとのび太にNO プレートを渡した。

NO プレートには？5と書かれていた。

のび太「5番目か。」

受付人「暗黒武術会では、64チーム居るんですよ。」

のび太「64チームも居るんですか!？」

受付人「そうです。それとゲスト様、今から5分後ホールで

大会の組み合わせ表が発表されるので早く行って見た方がいいです。」

のび太「わかりました。」

ホール

ホール内にはいっぱい人が居た。

のび太「すげえ、みんないっぱい居る。」

ドラえもん「そりゃ、暗黒武術会だからな。」

暗黒武術会では全64チーム、
AIDまでの4のブロックがあり、それぞれのブロックに16チームずつ組分けされる。

チーム名、ドラえもんシリーズこと、
ドラえもんチーム、Cブロック1番。

のび太「自信がついてきたような・・・！」

静香「負けてらんないな。」

静香は自信満々。

マリオチーム、Bブロック2番。

マリオ「イヤッホウー！」

戸愚呂チーム、Aブロック1番。

そして、

のび太「よし！準備は整った。」

スネ夫「僕達の大戦相手は誰？」

ジャイアン「ちびまる子ちゃんチームだよ。」

静香「名前はかわいいが……。」

安雄「とてつもなく強いチームだと思う。」

暗黒武術会では13人1組のチームが一人ずつでリングの上で戦う
(戸愚呂チームは例外)勝負の付き方は、

1…リング外またはダウンして10カウント経過した場合

2…対戦相手自身、または仲間が『参った』と宣言した時

3…対戦相手が死んだ時

そして勝負形式は一对一のバトルであり、先に3勝した方の勝利である。

また、凶器の使用はありで、急所攻撃もOK、とにかく何でもありである。

選手控え室用ホテル

スネ夫「何だって！？戸愚呂チームが負けた！！！！！！？」

全員「何だって!？」

静香「対戦相手は!？」

スネ夫「チーム名が分からない・・・。」

静香「こりゃ、あいつらは、かなりの強敵らしいな。」

ジャイアン「気を引き締めていこう!」

全員「おー!!!!!!」

彼らはリングの前に立った・・・。

首くくり島（後書き）

次回、戦いが始まる！

銃VS魔術（前書き）

どっちが勝つ！？

銃VS魔術

司会「やって来ました、ドラえもんチームです！！今回のゲストらしいですが、

その力はどれ程でしょうか？」

ちびまる子ちゃんチームの相手は全員顔を隠している。

司会「さあ、両チーム揃ったところで試合ルールを確認します、試合方式は対一のバトルです。

13人が先鋒 次鋒・・・中堅 副将 大将それぞれ戦ってもらいます、

先に10勝した方の勝ちです、よろしいですね？」

静香「はい。」

ちびまる子ちゃんチームの大将「OK。」

司会「それでは！先鋒はリングへ！」

静香「よし、先鋒は、のび太だ！」

のび太「ええっ！？何で！？」

静香「お前が一番戦闘能力が低いからだ！」

のび太「そんなああああ！！！！！」

ジャイアン「のび太、頑張つて来いよ！」

のび太「・・・おう。」

のび太は渋々リングに上がる。

のび太「おい、お前ら。先鋒は誰だ？」

??「わたしだ。」

ちびまる子ちゃんチームの先鋒は、丸尾。

丸尾はリングに上がってくる。

のび太「覚悟は出来てるだろうな?」

丸尾「あなたこそ?」

司会「試合、スタート!」

のび太「鍛えた銃術を食らえ!」

のび太はハンドガンを出す。

丸尾「私は魔術で・・・。」

丸尾は右手に炎を出す。

のび太「必殺！ランチャーショット！」

バン！！！！！！

ロケットランチャー並の速さ、威力で撃つ！

丸尾「甘い！」

丸尾は弾を炎でかき消した！

丸尾「これぞ、きゅっえん丸炎！」

のび太「なめるなああああ！！！！！！必殺！マシンガンショット

「！！！」

ババババババババン！！！！！！

一瞬で10発の弾を撃つ！！

丸尾「そんなもの、炎で・・・！？」

弾が、突然消える。

丸尾「何！？どこに行った！？」

のび太「（ニヤッ。）お前の腹だよ。」

丸尾「何っ！？」

丸尾は自分の腹を見る。

のび太のいうとおり、弾が腹を命中していた！

丸尾「ぐあああああ！！！！！！」

のび太「ただのマシガンショットじゃない、「消失マシガン」だ。」

丸尾「なめるな！わたしの本気を見せてあげるよ！

食らえ！ファイアブロージョン！！！！！！」

丸尾は手に大きい炎を出し、炎を右手で地面にたたきつけた！！！！！！

炎は地面からのび太の方に向かっていく！

丸尾「その炎は狙いを撃つまで追いつけますからね……。」

のび太「くっ！ならこっちも……手榴弾！」

のび太は丸尾に手榴弾を投げる。

丸尾「何っ！！！！！！？」

2人「ぐあああああああああああ……！！！！！」

ドガアアアアアアアアアアアン!!!!!!!!!!

スネ夫「のび太！」

安雄「のび太は大丈夫なのか!？」

静香「いや、見るんだ！」

煙が晴れた。

のび太「ゼー、ゼー……。」

丸尾「ゼー、ゼー……。」

相打ちだ……。

のび太「とどめだ……。バズーカショット!!!」

ボン!!!!!!

ハンドガンでバズーカ並の威力や、速さの弾を撃った!!!

丸尾「そんな……。馬鹿なあああ!!!!!!」

銃VS魔術（後書き）

次回、次鋒戦！

ファイナル魔術（前書き）

戦え！スネ夫！

ファイナル魔術

スネ夫「これで1勝・・・！」

静香「次鋒戦は・・・。スネ夫だ！」

スネ夫「ええっ！？僕！？」

静香「魔術使えるんだし、いいだろ？」

ジャイアン「頑張れスネ夫！」

スネ夫「うっう・・・分かったよ・・・。」

スネ夫は渋々リングに上がる。

ちびまる子ちゃんチームの大将「次鋒戦は、お前だ。」

ちびまる子ちゃんチームの次鋒「はっ。」

ちびまる子ちゃんチームの次鋒はリングに上がる。

スネ夫「お前の正体は誰だ？」

ちびまる子ちゃんチームの次鋒「私の正体は……。」

バッ!!!!!!!!!!

藤木「藤木だよ……。」

スネ夫「陰気の奴か。楽勝だ！」

司会「試合、スタート！」

藤木「行くよ……。シャドウボール！」

藤木は闇の球を放つ！

スネ夫「うおっと！速さは遅いようだな。

こっちも行くぞ！ファイガ！」

スネ夫は移動しながら藤木にファイガを放つ！

藤木「ぐあああ！何故お前がFFの呪文を！」

スネ夫「特訓の成果かな？俺は魔法を放ちながら移動することが出来るんだ！

（ちなみに作者のイメージはウィズ。フォームです。）

藤木「手強い！食らえ！魔道砲！」

藤木は両手でかめはめ波のポーズで闇の光線を放つ！

スネ夫「甘い！リフレガ！」

スネ夫はリフレガで魔道砲で跳ね返した！

藤木「なかなかだな・・・。」

スネ夫「今度はこっちから行くぜ！

ブリザガ！サンダガ！ファイガ！！！」

藤木「ぐああああああ！！！！！」

藤木はリングの外まで吹っ飛ぶ！

スネ夫「弱いな・・・。」

藤木「くっ・・・。」

藤木は動けない・・・。

藤木「ちくしょう！！！！！」

藤木は無理やり立ち上がり、リングに上がる。

藤木「あきらめてたまるか！必殺！ジ・エンドボール・・・！」

スネ夫「何だ！？」

藤木「はああああ！！！！！！」

藤木は高く飛ぶ！

藤木「死ねええええ！！！！！！」

藤木はジ・エンドボールを放った！

スネ夫「まずい！リフレ・・・！」

ドギーーーーーン！！！！！！

藤木「やった・・・。」

スネ夫「うう・・・。」

藤木「僕は勝った。さて、リングから降りるか・・・。」

藤木はリングを降りようとする。

スネ夫「・・・マグネガ!」

何と、すでに瀕死の筈のスネ夫が、気力を持っていた!

藤木「・・・?何だこれ!?引き寄せられる!」

藤木は後ろを見る。

スネ夫「マグネガさ。この呪文は遠くの敵をも引き寄せる・・・。
地獄に堕ちろ!!!!!!!!!!」

藤木「わあああああああ!!!!!!!!!!!」

スネ夫「ファイガ!!!!!!!!!!」

藤木「ぎゃあああああああああああああああああ!!!
!!!!!!!!!!」

藤木「ぐはっ！・・・。」

藤木は動かなくなった・・・。

司会「1、2、3、4、5、6、7、8、9、10！

試合終了！！勝者、ドラえもんチーム、スネ夫！！！！」

スネ夫「よっしゃああああ！！！！！！」

ジャイアン「スネ夫！凄えぜ！」

スネ夫「いやー、それ程でも・・・。」

照れるスネ夫。

はる夫「さすが！」

のび太「ちびまる子ちゃんチームは弱いのはっかりだな！」

静香「これなら順調に決勝戦までいけるぞ！」

ファイナル魔術（後書き）

次回、必死の戦い！

影（前書き）

影と

影

静香「順調だな。」

はる夫「次は誰行く？俺はごめんだぜ。」

小池「俺も。」

静香「フム……。よし！安雄！」

安雄「よし！久々に俺の出番が来た！」

安雄は自信満々にリングに上がる。

安雄「俺の相手は誰だ！？正体見せな！」

?????「私の名は……！」

バッ！

たまちゃん「たまちゃんよ。」

安雄「女の子だからって、手加減しないぜ!」

たまちゃん「こっちも!」

司会「試合、スタート!」

のび太「安雄で大丈夫なのか?」

静香「ああ。あいつは「影踏み」という能力を持っている。」

安雄「こっちから行くぜ。影踏み!」

安雄はたまちゃんの影を踏んだ!

たまちゃん「えっ!?!」

安雄は一瞬でたまちゃんの背後に着いた!

安雄「はあっ!エルボードロップ!」

たまちゃん「きゃああああ!!!!」

たまちゃんはひじで床にたたきつけられた!

ジャイアン「女にも容赦ないな・・・。」

安雄「どうだ!」

たまちゃん「フッフ・・・。」

安雄「何がおかしい!?!」

たまちゃん「甘い。」

たまちゃんは起き上がる。

たまちゃん「それぐらいの戦闘能力しか持たないなんて・・・。」

安雄「!？」

たまちゃん「今度はこっちよ。バーサクオーラ！」

たまちゃんの体からオーラが出た！

安雄「!？」

安雄は後ずさりをする。

たまちゃん「!」

たまちゃんは一瞬で安雄の元に移動する。

たまちゃん「はあっ！」

安雄「ぐあ！ぐあ！ぐあ！ぐあ！ぐあ！ぐあ！ぐあ！ぐあ！ぐあ！ぐあ！」

安雄はたまちゃんの連続攻撃を食らう！

安雄「・・・はあっ！影踏み！」

安雄は連続攻撃を受けてる途中に影踏みをした！

たまちゃん「えっ！？」

安雄「バカめ！」

安雄も何か体からオーラを出す！

のび太「何だあのオーラは！？」

静香「いや、俺にもわからない・・・！」

むしろ俺があのおーラを見るのは初めてだ！」

安雄もジャンプする！

安雄「とどめだ・・・シャドウナックルハンマー！！！！！！」

バゴーーーーーン！！！！！！

たまちゃん「ぎゃあああああああああ！！！！！！」

たまちゃんは地面にたたきつけられた！

ズシャアアアアアアアアン！！！！！！

安雄「終わった・・・。フッ。」

安雄は地面に降りた。

司会「1、2、3、4、5、6、7、8、9、10！

試合終了！！勝者、ドラえもんチーム、安雄！！！」

安雄「ふー。」

ジャイアン「凄いぞ、安雄！」

安雄「ボコボコになったけど、何とか勝ったぞ・・・！」

静香「勝つのは良いんだが・・・。ちびまる子ちゃんチームがあんなに弱いのが

何か不思議に思える。」

ミイちゃん「確かに。何か裏があるかもしれないわね。」

影（後書き）

次回、死の宣告！

熱さと死（前書き）

熱湯の戦い。

熱さと死

静香「次は・・・小池だ!!」

小池「ええっ!? まだラーメン食ってるのに!？」

静香「いつまでもラーメン食うなああああ!!!!!!!!」

小池「すーませんでした」

小池はリングに上がった。

小池「おい! 俺の相手、出てきな!」

??「僕の名は・・・。」

バツ!

花輪「花輪さ。」

花輪は自分の体よりでかいサイズを出す。

小池「花輪か・・・弱そうだ!」

司会「試合、スタート!」

試合開始と同時に花輪は小池の耳元に瞬間異動をし、何かを宣告した!

小池「!?!?ぐあっ!」

すると、小池の頭上に、「13」という数字が現れた!

小池「なっ!?!?何だこれは!?!」

花輪「「死の宣告」お前の頭上の数字が0になると 死ぬ」

小池「はあっ!?!」

驚く小池。

小池「くそう！数字が何ぼのもんか！！」

小池は花輪に近づく。

小池「必殺！ラーメン熱湯！」

小池はラーメンの熱湯を花輪にぶっ掛けた！

小池「・・・あれ！？」

なんと、花輪の姿が無い！

花輪「甘いね。」

何と、花輪は小池の頭上にいた！

花輪「行くぞ！竜巻切り！」

花輪は小池をサイズで連続で切った！

小池「ぐああああああ！！！！！！」

小池は吹っ飛ぶ。（数字カウント8）

花輪「見たかい？これが僕の実力さ。」

小池「ぐ・・・なめるなあああ！！！！」

小池は立ち上がり、反撃する！

花輪「無駄さ。」

花輪は軽くよける。

小池「・・・くっ！！」

花輪「はあっ！！」

花輪はサイズで小池を浮き上がらせる！

小池「ぐあっ！」

花輪「はっ！」

小池「ぐあっ！」

花輪「はっ！」

小池「ぐあっ！」

花輪「はっ！」

小池「ぐあっ！」

花輪「はっ！」

小池「ぐあっ！」

花輪「はっ！」

小池「ぐあっ！」

花輪「はっ！」

小池「ぐあっ！」

小池は地面に着地した。（数字カウント1）

花輪「終わりだ！」

花輪は瞬間移動し、サイズで小池を切り裂いた！

小池「ぐあああああ！！！」（数字カウント0）

小池「ぐばあっ！」

小池は口から血を吐き、倒れた。

ドサッ・・・。

司会「1、2、3、4、5、6、7、8、9、10！

試合終了！！勝者、ちびまる子ちゃんチーム、花輪！！！」

小池「・・・。」

ジャイアン「小池ええええええ！！！！！」

ジャイアンは小池の元に駆けつける。

ジャイアン「・・・良かった！まだ息してる！」

ジャイアンは小池を皆の元に運んだ。

安雄「小池は大丈夫なのか？」

静香「・・・これは手当てし、安静にしないと・・・。

スネ夫「回復魔法は？」

スネ夫「あるよ。ケアルガ！」

スネ夫はケアルガで小池を治した！

小池「・・・うーん・・・。」

小池はムクツと起き上がる。

スネ夫「良かった。しばらく安静にしてるんだぞ！」

小池「・・・おうよ。」

熱さと死（後書き）

次回、命がけの戦い！

命がけの果物（前書き）

果物の戦い。

命がけの果物

静香「初めて一回負けた・・・。」

ジャイアン「むむむ・・・次は誰が行くんだ？」

静香「よし、次ははる夫だ！」

はる夫「OK！」

はる夫はリングに上がった。

はる夫「よし！俺の対戦相手は、誰だ！？」

?????「・・・。」

バツ！

ブー太郎「ブー太郎さ！」

はる夫「俺、勝てるかも！？」

司会「試合、開始！」

はる夫「果物投げ！」

ブー太郎「おっと、ただ果物を投げてるだけじゃん。ほらよ。」

ブー太郎ははる夫の攻撃を軽くかわした！

はる夫「何っ！？」

ブー太郎「今度はこちらの番だよ。大豚突進！！！」

ブー太郎は口笛でたくさんの豚を召喚し、大量の豚がはる夫に突進した！

はる夫「ぎゃあああああ!!!!!!」

ブー太郎「豚武術を、甘く見るなよ!」

はる夫「くう……。必殺!スイーツバスケット!!!!!!」

はる夫は大量の果物を食べ、太りまくり、そして、ブー太郎を押し潰そうとする!

ブー太郎「なめるなよ!」

ブー太郎もはる夫に向かって突進する!

はる夫「バカめ!自分から来るとは!」

ブー太郎「そうじゃないさ。ただ……。」

はる夫「ただ?」

ブー太郎「はあああああ・・・！！！！！！」

ブー太郎は手に何かを溜める！

はる夫「！？」

ブー太郎「必殺！シャイニングピッグブラスト！！！！！！」

ブー太郎は光の豚光線をはる夫に向かって放った！

はる夫「おぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼあああああーーーー！！！！！！」

はる夫、地面に倒れる。

ブー太郎も地面に着地する。

司会「1、2、3、4、5、6、7、8、9、10！」

試合終了！！勝者、ちびまる子ちゃんチーム、ブー太郎！！
」

ブー太郎「勝負あったようだね。」

はる夫「う．．．。」

はる夫は自力で静香達の元に向かった。

静香「大丈夫か！？．．．これは酷い怪我だ．．．！」

スネ夫「大丈夫。僕のケアルガで！」

スネ夫はケアルガではる夫を治療した！

はる夫「治った！ありがとう、スネ夫！」

スネ夫「お安い御用！」

静香「しかし、俺達は2回連続負けてしまった・・・。
次に行くのは・・・。」

命がけの果物（後書き）

次回、科学の戦い！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7441v/>

ドラえもんー13人制、暗黒武術会

2011年10月9日03時06分発行